

令和6年度 新潟県病害虫発生予察速報第1号 (ナシ赤星病の薬剤散布時期について)

1 ナシ赤星病の越冬伝染源量と薬剤散布時期

(1) 越冬伝染源量

中間宿主ビャクシン類における冬胞子堆の1枝当たり病斑数は0個で、**越冬伝染源量は
平年比やや少ない(表1)。**

表1 ナシ赤星病の中間宿主の冬胞子堆密度(1枝あたり病斑数)

調査地点	本年	前年	平年	発生概評
新潟市江南区早通	0	0.07	0.47	やや少
新潟市秋葉区子成場	0	0.13	0.72	やや少
新潟市南区戸頭	0	0	1.39	やや少
平均	0	0.07	0.86	やや少

令和6年4月10日、各地点30小枝調査

(2) ビャクシン類およびなしの薬剤散布時期

積算温度から推定した冬胞子堆の成熟状況に基づく薬剤散布時期は、**ビャクシン類で4月
14日頃、なしでは4月23日頃で平年並と予測される(表2)。**

表2 ナシ赤星病の薬剤散布時期の予測

気象観測 地点	積算温度		ビャクシン類散布時期		なし散布時期	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
聖籠	273.5	281.6	4月15日	4月14日	4月24日	4月23日
新津	276.2	261.6	4月14日	4月16日	4月23日	4月24日
巻	281.4	281.0	4月14日	4月14日	4月23日	4月23日
三条	295.4	293.0	4月13日	4月13日	4月22日	4月22日
平均	281.6	279.3	4月14日	4月14日	4月23日	4月23日

注1) 積算温度は、2月1日～3月31日の日平均気温の積算値(日平均気温が0℃以下は加算しない)

注2) 平年は、平成26～令和5年の平均

注3) 散布時期の予測は、2(3)に示す予測式から算出

2 今後の対応と注意点

- (1) 今後の気象経過により薬剤散布時期が変動することがあるので注意する。
- (2) ビャクシン類は冬胞子堆が成熟して膨潤する直前に薬剤散布する。降雨が予想される場合は、降雨直前の薬剤散布が効果的である。
- (3) 薬剤散布時期は各地域の気象観測値を利用して、次式で予測できる。

予測式 ビャクシン類 $Y = 36.572 - 0.082X$

なし $Y = 41.91 - 0.0685X$

Y : 4月1日以降の日数

X : 2月1日～3月31日の積算温度(日平均気温が0℃以下は加算しない)